

## 2022年2月13日 大井バプテスト教会 礼拝説教

説教題 「人のものは人へ、神のものは神へ」 マルコによる福音書12章13~17節 牧師 広木 愛

「彼らは来て、イエスに言った。『先生、わたしたちは、あなたが真実な方で、だれをもはばからない方であることを知っています。人々を分け隔てせず、真理に基づいて神の道を教えておられるからです。ところで、皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているのでしょうか、適っていないのでしょうか。納めるべきでしょうか、納めてはならないのでしょうか。』イエスは、彼らの下心を見抜いて言われた。「なぜ、わたしを試そうとするのか。デナリオン銀貨を持って来て見せなさい。」彼らがそれを持って来ると、イエスは、『これは、だれの肖像と銘か』と言われた。彼らが、『皇帝のものです』と言うと、イエスは言われた。『皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。』彼らは、イエスの答えに驚き入った。」 マルコ12・13~17

信教の自由を守る日を迎えて、今おかれているところで信仰をいただくこの意味をもう一度考える時間を持ちました。バプテスト教会に連なる意味を考える機会がこの時にいただけることができる大切な日。大和という文化の中どっぷり生きる私たちが、キリストを主と告白し、その働きにつかえることは、別に簡単なことだと思っていた時期がありました。生まれて大和の文化の中にずっと生きていて、聖書と出会ったのだから、大和文化と聖書の融合なんて簡単だし、何をそんなに真剣にキリスト者として日本という国で生きる意味はなんだろうか、教会がおかれている土地で生きる意味とはなんだろうか・・・なんて考えようとも思いませんでした。

このことを意識するようになったのは、沖縄に住んでいた時、同じ日本といわれる場所なのに、実際に住んでみて、「文化が全く違う！」と感じる中で、2・11が日本の俗にいう建国記念日・・・といわれているのに対して、ある友人から「沖縄では、この日、琉球王国が生まれた日ではないし、沖縄県として大和に支配されるようになった日も2・11ではないから、なんの休みなのかわからないんだよ」といわれた時に、同じ日本という国の中にも、様々な文化があって、そこにもキリスト教会が建てられて、福音を宣べ伝えている。大和と融合した福音ではなくて、おかれている場所でまじりつけなしの福音に生きることがもしかしたら大切なものかもしれない・・・とを感じるようになりました。

沖縄という地に建てられている教会が歴史を通して、そして今おかれている現状から福音に聞く姿を見て、教会が建てられている土地で、そこにある現実の中で聖書を読んでいく必要があるのだと実感していきました。沖縄に置かれている米軍基

地の前で毎週ゴスペルを歌う活動が続けられています。日本にいてやっているのだから、だまって基地を受け入れればいいのに・・・基地が嫌なら日本から独立すればいいのに・・・という声も聞こえてきます。でも、そこで大切にされるべきは、命が大切にされるべきと聖書からメッセージをいただいた人たちが、そこで毎週主を賛美する歌を歌っている。普天間飛行場のゲート前でゴスペルを歌い続けても、状況が変わったということはありません。逆に、どんどん悪化してきているようにも思います。それでも歌い続ける。聖書から示された人たちができることを・・・何も変わらない、歌なんて！と思われる方法で、聖書からいただいた福音を生きようと、応答する行動がゴスペルを歌うという形で記されている。

その結果は人の目には見えないことだろうと思います。沖縄の普天間飛行場前のゴスペルアクションが、東京、福岡、戸塚、岡山の和気で・・・その働きが広がっている。神さまから託された仕事は一生懸命する。誠実に仕える。その先に何が起こるかは・・・神さまの領域で、神さまのご支配の事柄。神さまにその結果をお委ねしていくことも同時に大切にしていける必要があるのだなあと思わされます。

それは、ゴスペルアクションという出来事から教会に置き換えてみても、同じなのだろうと思います。先週の日曜日に次年度の教会の働き人の立候補の締め切りがありました。教会学校の次年度に向けての準備が始まっています。校長推薦委員会の働きも続いています。

教会はエクレスシア、呼び集められたもの・・・なのに、今わたしたちは集まることができない・・・呼ばれてはいるのに、集まれないものになっています。それでも教会だとわたしたちは、信じています。

わたしたちができることは、大井町という場所に2022年に建てられているわたしたち、教会はなにができるかを聖書から聞き、その答えを祈り求める。そしてその祈りから生まれてきた主の働きに誠実にただ仕えることなのだろうと思います。呼び集められることが今どれだけ大切かと思えます。一つ一つの祈りを聞き合うことができる、そしてその祈りの共有から、賜物を分かち合うことができたから。でも今、集まれないということは祈りを聞くこともできず、賜物を分かち合うことができないことで、主の働きの広がりや狭められていく。

集まれないからしょうがない・・・と狭くなっていく主の働きを見過ごすのではなくて、どうすれば、神さまの働きを狭めることなく、わたしたちがなしていくことができるのか、祈りの言葉を、知恵を主が必ずあたえてくださることを期待して共に祈っていければと思います。